

単元名 4 人間のきずな ―漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3 配当時間 1時間

単元の目標 (1) 文脈や言葉の意味に注意して、漢字を読んだり、書いたりすることができる。

同音異義語の

概念について、具体的な例を当てはめて理解することができる。

(3) 学習課題に沿って、積極的に同音異義語を理解し、漢字読んだり書いたりしようとする。

標準的な展開例

11210207_001

【準備等】国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 同訓異義語、同音異義語について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あつい」と読む漢字を書き出す。 本時の学習課題をつかむ。 ★同じ訓、同じ音をもつ漢字を理解しよう。 教科書の例を読んで同訓異義語、同音異義語を知り、練習問題 (p. 121) に取り組む。 教科書の例以外の同訓異義語、同音異義語について調べる。 調べた同訓異義語、同音異義語を使って、短文を作り、発表し合う。 漢字に親しもう3 (p. 122) に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「暑い」「熱い」「厚い」を挙げさせ、どういうときに、どの字を使うかを考えさせる。 人数分の国語辞典を用意しておく。 それぞれどのような意味があるのかも調べ、ノートや学習プリントに書かせる。 【評】同訓異義語、同音異義語を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 支援が必要な生徒には、国語辞典の例文を用いてもよいこととする。 【評】同訓異義語、同音異義語を使って短文を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く惹きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどういう効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。これは、道徳のC- (14) 家族愛にあたり、自分と家族の関わりを見直すよい機会とさせたい。